

# 事業所における自己評価総括表

事業所名	LITALICOジュニア心斎橋教室 児童発達支援
事業者向け自己評価表作成日	2025年10月23日（木）
自己評価総括の担当者	椎原・澤田・松本

	実施期間	有効回答数(回答者数)	有効回答数(対象者数)
保護者評価	2025年7月18日(金) - 8月28日(木)	25	30
従業員評価	2025年7月18日(金) - 8月28日(木)	2	9

## 各評価を受けて事業所内で分析した強みと弱み

事業所の強み（※）だと思われること  
※より強化・充実を図ることが期待されること

お子様が「楽しかった！」と通所を心待ちにする、安心できる場となっている。また、専門的な対話を通じて、保護者様ご自身の気づきと心のゆとりを生み出し、お子様の苦手への理解を深めるサポートができています。

事業所の弱み（※）だと思われること  
※事業所の課題や改善が必要だと思われること

・部屋の広さや待合室のスペースに関して構造的な制約があり、物理的な改善が求められています。特に、個別の支援を行う部屋が手狭である点が課題です。また、身体面など専門性の高い領域について、保護者様へより詳細な情報や専門的な解説を提供できる体制の強化が必要  
・研修・情報共有の不足：既存スタッフの専門知識のアップデートや、保護者への情報提供スキルに関する研修が体系的に行われていない。

## 過去の取り組みや課題の振り返り

工夫していることや意識的に行っている取組等

お子様の意欲と安心感の醸成

お子様が通所を楽しみにし、「楽しかった！」と話すことから、支援内容自体が魅力的であり、教室が安心できる心理的に安全な場として機能している。

専門性と保護者支援

単にお子様を指導するだけでなく、専門的な対話を通じて、保護者様の「気づき」や「心のゆとり」を生み出すペアレントサポートが成立している。

理解促進を通じた親子関係の改善

保護者様がお子様の「苦手」に対する理解を深める\*\*ことができるようサポートしており、これが親子の相互理解と関係性の改善に繋がっている。

事業所として考えている課題の要因等

・施設の構造的限界：建物自体の設計や築年数により、壁や柱の位置など、根本的な増築・改築が物理的に困難である。  
・土地の制約：そもそも施設がある場所の敷地面積に限界がある。  
・日常業務の多忙さ：スタッフが日々の支援業務や雑務に追われ、研修や自己学習、情報共有に充てる時間的な余裕がない。

## さらなる充実と改善への取り組み

さらに充実を図るための取組等

お子様の「楽しさ」と「安心感」を土台とし、その効果を自主的な学習意欲や挑戦意欲へと昇華させます。保護者支援においては、専門知識を活かした家庭内で実践できる具体的な支援方法を提供することで、支援効果の持続と安定を図ります。また、面談を通じてお子様の「できること」にも焦点を当て、親子のポジティブな対話を促すことで、ご家庭内での自己肯定感の向上をさらに強く支えていきます。

改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等

建物の構造的な制約を認識した上で、今後は物理的な拡張ではなく、備品やレイアウトの工夫、利用時間帯の分散など、運用面での代替策を最優先で検討・実行し、課題解決を図ります。必須研修と選択研修を明確にした年間カレンダー等を作成し、専門知識のアップデートと情報提供スキルを学べる機会を検討する